

## 夏期大学講座「新しい気象学」(第4回)経過報告

第4回夏期大学講座は予定通り7月20日から25日まで気象庁講堂で行なわれた。

今回の受講者は思いのほか少なかったが、講義は順調に行なわれ、また研究所・気象庁の見学も行なわれて充実した講座をもつことができた。

昨年同様、受講者にアンケートを求めたところ、出席者45名中30名の方々から回答を得られたので、次回の参考のために集計結果の要約を報告する。

なお、受講者は教員28名、学生10名、気象学会員6名一般1名の計45名であった。

### 1. この催しを何によって知ったか

学会の機関紙等(12)、学校への文書(9)、友人(6)新聞・地球の科学・森重出版(各1)

### 2. 受講回数は何回か

4回(1)、3回(2)、2回(2)、1回(24)

### 3. もっとも興味をもった講義内容

人工衛星による雲分布(11)、長期予報(9)、レーザレーダー(8)、航空気象(6)、集中豪雨(6)、数値予報(5)、気象と生活(3)、気象学史入門(2)、気象観測法(2)、見学・映画(6)

### 4. 講義内容または講師に対する要望

テキストがあるのだから要点をしばって、充実した内容の講義を(6)、講義日数を増やして詳細な講義を(3)、実地の知識を教えてほしい(3)、専門家でない人のために内容をかみくだいて詳細に(3)、講師は話し方を研究してほしい(2)、テーマをしばってほしい(1)、テキストに資料を多く入れてほしい(1)

### 5. 講義時間について

講義時間をのばしてほしい(12)、適当である(7)、休憩時間を10分位に(2)―今回は5分であった―、昼間やってほしい(2)、見学を休日にしてほしい(2)

### 6. 講座運営について

講座の発表を早く(今回は時間的に間に合わない人が

多かったようだ)、質問はカードにして個人的にしたらどうか、黒板やスライドをよく見えるようにしてほしい、受講者間の交流の場を設けたら

### 7. 今後の夏期講座にとりあげてほしいテーマ

気象の統計的解析、上層気流の世界的な季節変動、海洋気象、山岳気象、湖沼気象、微気象、気象環境の変動、南極の気象観測、気象の基礎知識、気象と生活(生活に結びついた身近なもの)、公害(大気汚染・光化学スモッグ等)、人工衛星と気象、国土計画と気象、大気大循環、極地気象、熱帯気象、温帯低気圧の発生と消滅、成層圏と対流圏の相互作用について、気候変動、北陸豪雪、メソスケールにおけるレーダーの活用、その他、雷、雲物理、地震等。

また、講師として、気象庁関係者ばかりでなく、大学関係の少壮学者の要望があった。

### 8. 気象学会に対する要望

科学教育に役立つこのような催しを今後も続けてほしい(冬季講座の併設も)、底辺を拡大しようとするこのような試みを多くもってほしい、講演会・映画会を開いてほしい、資料とか図書館を手軽に利用できるようにしてほしい、地学関係の教科書では気象部門が充実していないし、誤りも多々見受けられるので検討してほしい、気象の分野で今何が問題であるかをアピールしてほしい、気象のPRを、公害問題に科学者として真剣にとりくんでほしい、関連分野(気象との)の研究を天気等に掲載してほしい。

### 9. その他

夏期講座も4年めをむかえ、好評にもかかわらず、受講者数が最低を示したことは残念である。学会の通知の遅れたこともあるが、その企画性にも原因があると思われる。学術文化の発達に寄与する学会として、底辺の拡大にもっと計画性があるといいのではないだろうか。

(館)